

A 企業の管理監督者における役割ストレスの様相

西尾 仁美 (応用看護学)

【キーワード】 管理監督者 役割ストレス 企業支援 半構造化面接

本研究の目的は、企業の管理監督者における役割ストレスの様相を明らかにし、管理監督者に対する産業看護職による支援の示唆を得ることである。

研究デザインは、半構造化面接法による質的帰納的研究で、研究対象は、A企業の7事業所9部門に所属する管理監督者のうち同意が得られた15名であった。データ収集は、2021年3月から8月に実施し、面接内容は対象の同意を得て録音した。記述データは、録音内容から逐語録を作成し、研究対象者に記述データに相違がないか確認した後分析を行った。分析方法は、記述データから研究目的に則し文脈を抽出、コード化し、内容の共通性・相異性を検討し抽象化をすすめた。その結果、289のコード、39のサブカテゴリ、10のカテゴリ、4のコアカテゴリが生成された。(サブカテゴリ<>カテゴリ<<>>コアカテゴリ【】で示す。)

管理監督者における役割ストレスの様相を明らかにしたところ、管理監督者は、<<組織の課題解決が困難な状況>>に直面し、<<部下の成長を促す指導・教育に試行錯誤>>しながら、<<職場の最終責任者としての立場を意識した行動>>に配慮しつつ、<<上位職から得られない理解や承認>>に自らが苦悩しながらも<<ラインケアに気を配り職場の均衡を保つ>>という管理監督者の【立場上の葛藤】を抱いていた。その【立場上の葛藤】を抱きながら、<<困難な状況を乗り越えるために自分自身を整える>>ことや<<これまでの経験や上位職か

ら受けた影響を活かし(す)>>て、<<部下への責任や上位職の関りを原動力としプレッシャーに向かう>>という【責任を果たす行動】により管理監督者の役割を遂行していた。また、【立場上の葛藤】は、時に<<心身の症状や思考・行動に影響>>し、【ストレス反応】を生じていた。この【ストレス反応】や【立場上の葛藤】は、<<関係者への相談や組織内の支援体制を活用する>>という【相談し支援を活用】する行動により軽減されるとともに、<<部下との共感や職場の一体感を築きストレスが解消される>>など、職場環境を整える行動は自身のストレス低減にも繋がっていた。しかし、管理監督者自身の不調においては、<<責任感から自分を追い込む>>こともあり、保健師との信頼関係を前提に【相談し支援を活用】していた、という様相であった。

以上のことから、以下の管理監督者支援への示唆を得た。

- 1) 管理監督者が抱く組織の課題解決が困難な状況等をはじめとした立場上の葛藤の内容を理解し、管理監督者のセルフケア支援に活かす。
- 2) 立場や責任を重んじる管理監督者が、自身の不調において相談・支援を活用するには、産業看護職との信頼関係の構築が重要である。
- 3) 管理監督者が行うラインケアにおける産業看護職との連携・協働の機会を捉え、管理監督者との信頼関係を強化する。
- 4) 管理監督者のラインケア力を高める支援により、部下との共感や職場の一体感の醸成を図り、職場や管理監督者のストレスを軽減する。